

インプラント周囲炎の治療と予防 Treatment and Prevention of Peri-implantitis



Eiji Funakoshi
船越 栄次
船越歯科医院

近年、多くの歯科医師がインプラント埋入手術を行っているが、はたしてどれくらいの先生たちが将来起こりうるインプラント周囲炎について真剣に取り組んでおられるのだろうか。インプラント周囲炎は細菌のバイオフィームにより惹起される炎症状態と定義される。これらの炎症を伴うインプラント周囲のバイオフィームは感受性の高い宿主に対してインプラント周囲のさらなる感染を広げる可能性があるが、その組織は局所的な環境によって影響を受け、残存天然歯の細菌叢に非常に似ている。したがって、歯周病を治療していない、深い歯周ポケットが残存している、口腔衛生状態が悪いといった患者はインプラント周囲炎の進行が早まるリスクに曝されている。それ故、歯周疾患を有する患者においては、インプラント埋入に先立ってプロービング時出血を伴う残存ポケットの改善や骨縁下欠損を取り除くための歯周病治療を完了しておくべきである。

また、インプラント周囲炎を発症した場合は、第一目標として感染の消失と病変の進行防止を目的とした原因除去療法を行うことによって、健全なインプラント周囲組織を確立する。しかし、多くの骨喪失の症例では原因除去療法に続いて第二目標のインプラント周囲骨の再生と骨内欠損の回復を行うことが必要になる。

そこで今回、当診療所で行なっているインプラント周囲炎を未然に防ぐことを念頭においた治療、即ち、深い歯周ポケットを伴った水平性骨欠損や骨縁下欠損を伴った重度の歯周炎に対して具体的にどのように対応しているか、また発症したインプラント周囲炎に対してどのような治療を行なっているか、臨床例を通してインプラント周囲炎の予防および治療法について考察してみたい。

【略歴】

- 1971年3月 九州歯科大学卒業
- 1973年5月 Tufts 大学大学院卒業 Certificate of Periodontology 授与
- 1976年5月 Indiana 大学院卒業 Master of Science in Dentistry 授与
- 1973年5月 Indiana 大学歯学部助教授 (1977年6月まで)
- 1977年7月 Indiana 大学歯学部准教授 (1978年6月まで)
- 1980年8月 福岡市にて船越歯科歯周病研究所 開設
- 1992年4月 日本歯周病学会理事 (2017年3月まで)
- 1999年12月 九州大学歯学部臨床教授 (2012年3月まで)
- 2003年4月 日本臨床歯周病学会理事長 (2007年5月まで)
- 2005年9月 ITI section Japan Chairman (2018年6月まで)
- 2011年4月 九州歯科大学臨床教授 (現在に至る)
- 2015年4月 ITI Board of Directors (2023年5月まで)